

福山市老人大学 第48/8期 修了式 式辞

福山市長代理・杉野副市長を始めとする市行政幹部のご列席・市議会議長代理・塚本副議長・小川市老連会長・池口元老大学長・地元霞学区の枝廣連合町内会長・渡辺公民館長を始めとする多くのご来賓・講師の先生方のご臨席、学生の皆さんのご出席をいただき、福山市老人大学2018年度・第48期修了式を盛大に挙行できますこと、大変有難く嬉しく存じます。

一年間の学習と活動を終えられ、晴れて今日の修了式に臨まれた学生の皆さん、おめでとうございます。

今年度の複数教科受講生を含む延べ学生数3080名の内、20回以上出席して修了証書を授与された方、2863名、年間36回全ての授業や式典に出席されて皆勤賞を授与された方は、303名です。

健康管理に努め、熱心に通学され、見事、修了証書・さらに皆勤賞を授与された皆さんに重ねてお祝いを申し上げます。

今年度の本講座は、実用仮名・絵手紙・イキイキ体操・フト歌謡・スマホ科の新設により、全部で32教科・97クラスを設けて、57名の講師に懇切丁寧なご指導をいただきました。

また、短期講座として、これまでのボランティア・ばらづくり・古典文学に、新たにデッサンとスペイン語を加えました。

特にスペイン語は、枝廣市長から、昨年度の前期全員教養講座の講師を務めていただいた際、福山市が、東京オリンピック・メキシコ選手団の事前合宿地となることに向け、「老人大学でスペイン語講座を」とのご提言を受けての開設でありました。

定員40名に対して受講希望者は91名、抽選で選ばれ、全10回の講座を終え、先日の講座修了式に臨んだ学生代表は、謝辞の中で、

「テレビの講座と違って、前田講師がご自身の言葉で語られるスペイン語のなんと豊かで贅沢な事、また、一緒にご指導下さったダマリスさんのメキシカンパワーに圧倒されました」

「私は老大卓球クラブで活動しているので、メキシコ選手団とともにやってくるパラグアイの卓球選手団の練習を見に行き、挨拶だけでも出来たらと思っています」と抱負を語っています。

新年度のスペイン語講座は、全32回講義の本講座に取り入れ充実させて参ります。

今年度は、老人大学創立45周年の節目の年でありました。ここリーデンローズで開

催の10月の記念式では、永年在籍の学生と永年勤続の講師に表彰状・感謝状を授与致しました。

また、続けて開催の記念リサイタルは、若きピアニスト・藤井風さんの懐メロ中心の歌と演奏で楽しい時を過ごして頂きました。

12月には、県民文化センターで記念カラオケフェスティバルを催し、老生80名が喉自慢を繰り広げ、観客席は、午前9時30分から午後3時過ぎまで終日満員の盛況でした。

今年の年明けから、積年の課題であったブロック塀のネットフェンスへの改修工事が行われています。道路と校内との視界が劇的に改善され、交通安全が格段に向上すること間違いありません。福山市行政のご英断に衷心より御礼申し上げます。

ビジネス情報の姉妹月間誌・シニア向け情報誌「ぐらんぷあーま」が、創刊5周年記念の今年2月号に、老人大学を「地域のシニア世代のリーダー」として、大きく掲載して下さいました。

不老長寿は、人間の古代からの願望であります。今や長寿大国となった我が国ですが、その主人公たる高齢者の大半は、老齢年金を受給し、各種の高齢者割引を活用しながら、老人と呼ばれることを忌み嫌い、老人であることを認めたくない気持ちを強く抱いています。「少しでも若く ありたい、若く 見られたい」そうした価値観がテレビコマーシャルなどを席卷しています。老人大学も名称変更の圧力を受けています。

しかし、先日もスマホ科の受講手続きに来られた新規の学生が、「業者がやっている講習会に行ったけど、若い人が早口で説明するので、全然わからなかった。でも、わかったふりして帰ったの」と話されていました。

ここに、高齢者であることを入学資格とする老人大学の掛け替えのない存在意義があるのです。

老人・高齢者・シニア いずれの言葉を用いようとも、高齢者の生涯学習の場としての老人大学は、全国から注目され、全国に誇りうる福山市の画期的な高齢者福祉施策です。

老人大学の存在を大切に思う人々が心をつにし、創立50周年に向かって更に前進されることを祈念して、式辞といたします。

2019年（平成31年）2月28日

福山市老人大学 学長 高橋 和男